

「岡山備南千両なす」ブランド産地の取組
(岡山市 JA岡山備南施設茄子部会)

農業

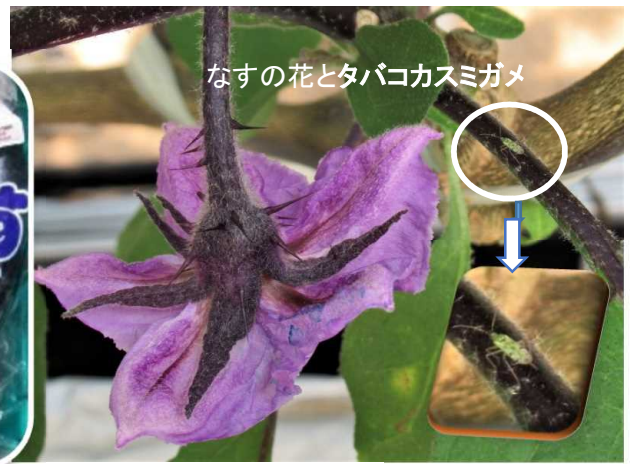
林業

水産業

関連産業



カメラ付き選果機



なすの花とタバコカスミガメ

【経営規模(部会)】 岡山県内最大のなす産地

- ◆ 生産者 : 82 戸
- ◆ 栽培面積: 14.4 ヘクタール
- ◆ 出荷数量: 約 2,000トン/年
- ◆ 販売金額: 約10億円/年

【取組の経緯】

昭和44年 施設茄子の栽培を開始、「岡山備南千両なす」のブランド化を図り今年51年を迎える。共同育苗、カメラ付き自動選果機の導入などにより、選果体制の効率化を図ってきた。

【取組の概要】

- ◆ 栽培の取組
 - ・ 児島湾干拓地のミネラル豊富な土壌と、冬季の瀬戸内の温暖な気候を利用して、9月～6月末(出荷ピークは4月～6月)の間、冬春なす(千両なす)のハウス栽培を行っている。
 - ・ 開花した花の色、大きさ等により結実させる花を選択するなど、手間を惜しまない栽培技術が確立されており、皮が薄く、実の詰まった品質の高いなすを栽培している。
 - ・ 平成25年頃から、害虫であるアザミウマの天敵(タバコカスミガメ、スワルスキーカブリダニ)を導入し、農薬の使用量、散布回数を大きく減らした。
 - ・ 接ぎ木苗(約8万本)の共同育苗、ハウス内の温度管理の自動化や、かん水パイプの利用など、作業の効率化を図っている。
- ◆ 出荷・販売
 - ・ 選果場では、生産者が一次選果したなすを、カメラ付自動選果機を使って、大きさ、色、形等により13等級に効率よく選果している。
 - ・ 10aあたりの収穫量は他産地より少ないが、高品質のなすを生産・出荷しているため、他産地に比べ高単価で取引されている(色が濃く皮の歯切れが良いことから、京都の漬物原料として需要がある)。
 - ・ 千両なすのような中長なすは、関西圏より東で需要が多く、主な出荷先は京都市場、東京の3市場他、大阪、神奈川、兵庫など。

【取組の課題と対応】

- ◆ 現在、選果場で小売店向けのなすを小分け袋詰めして出荷しているが、なすの皮は滑りにくいため、手作業で袋詰めを行っている。今後、袋詰め機械等を導入することにより、作業の効率化を図りたい。

【お問い合わせ先】 JA岡山備南施設茄子部会

岡山市南区北七区61-1 TEL:086-363-5122
JA岡山 HP: <http://www.ja-okayama.or.jp>